

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001336		
法人名	医療法人 純正会		
事業所名	グループホームサンハウス荒子 2階		
所在地	名古屋市市中川区高畑2丁目274番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371001336-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371001336-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ひとりひとりの尊厳を大切にし入居者本来の援助ができるように努めている。料理は、心のこもったものを出している。家事等できる事は、職員と利用者が一緒に行い家庭的な暮らしができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、母体が医療機関でもあることで、利用者に対する医療面での支援が充実していることが特徴でもある。協力医による往診が行われていることで、日常の健康管理が行われている他に、利用者の急変時にも母体医療機関へ受診支援が行われており、家族にとっては、安心できる医療体制が整えられている。ホームでは、主にホーム単独での活動が続いていたが、地域の町内会への入会が実現したことで、地域の方との交流についても、可能などころから始めている。さらに、職員体制が十分でない状況が続いたことで中断していた運営推進会議が開催できるようになり、その会議に地域の方や地域包括支援センター職員の出席が得られており、新たな交流が始まりつつある。職員間で意見を交わし協力しながら、利用者が地域の一員として、充実した生活が継続できることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳を第一に考え、その人の立場に立った思いやりのある介護」の運営理念は職員間で共有し、日々のケアに役立っている。	ホーム独自の理念をつくっており、現管理者に交代してから、理念の内容の見直しを行っている。管理者は、見直した理念内容に基づきながら、利用者の尊厳に配慮した支援に努めるように職員に伝えている。	理念に込められている思いを職員一人ひとりが考えることで、日常の取り組みを振り返る機会とされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と職員は、日常的に散歩に出かけ、近所の人と気軽に挨拶を交わしている。また、入居者の友人も気軽に面会に来ている。祭り等の行事にも参加している。	町内会への入会が実現したことで、徐々に関係が深まりつつある。その中で、地域で行われたバザーに、利用者と一緒に出かけ交流を始めている。また、中学生の職場体験についても受け入れる方針でもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習を受け入れている。認知症についての相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いきいき支援センター、町内会役員、家族、利用者を会議のメンバーとして近況報告や話し合いをできるように取り組んでいる。また、そこでの意見交換をもとにサービス向上に努めている。	会議は、職員体制が十分でないこともあり、開催は、1年間で3回となっている。その会議の中でも、少しでも運営につなげようと、近隣の方の出席が得られている。会議を通じて、地域の情報を得る機会にもなっている。	現状は、職員体制が難しいこともあり、再び中断しているが、可能な範囲で会議を定例化し、地域の方や地域包括支援センターとの定期的な情報交換の機会になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者について情報を交換している。	ホームでは、生活保護を利用している方が生活していることで、市担当者との定期的な情報交換の機会にもなっている。また、市で行われる研修会や講習会の際には、ホームからも職員が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族からの要望もあり、ユニット入口に急な階段がある為ユニット入口は施錠している。	ホームでは、身体拘束を行わない方針を掲げている。管理者は、職員に対して、利用者の安全確保も大切であるが、利用者の尊厳に配慮することの大切さも伝えながら、適切な対応につながるよう指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等により、高齢者虐待防止法を理解し職員同士注意しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者が権利擁護を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を十分行い、その後も不安や疑問点があれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を実地し、家族の意見を吸い上げている。	ホームでは、年2回、家族会の機会をつくっており、家族との情報交換に努めている。日常的には、管理者が意見や要望等の把握を行っている。また、毎月、職員にも協力を求めながら、個別の便りの作成を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞き良いことは、反映させている。	現状、職員体制が十分でないこともあり、定例会としての会議は行われていないが、管理者は、日常的に意見や要望等の把握に努めている。また、ホームには、管理者の他に法人の事務長がホーム施設長でもあるため、内容により、施設長が対応することもある。	職員からの前向きな意見や思いが引き出せ、利用者へのより良い支援につながるように、会議を定例化し、管理者からの思いを伝えたり、現場職員からの思いが出されるような体制づくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にするように労働条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費の補助を行い外部の研修に希望者を募っている。また実践者研修には常勤職員全員が参加できるように順番に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った同業者と交流を持ち互いに訪問や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とは常に、家族とは随時、不満や要望などの聞き取りを行うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明を行う段階で、本人及び家族が何を求めているのか時間をかけて把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、生活環境、状態などを見極め、必要な情報の提供や相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理などできることをしてもらい共に暮らしているとう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日ごろの暮らしぶりなどを報告し利用者の相談をしたり、また家族からの相談にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前の施設の職員など気軽に会いに来てもらえるように努めている。	ホームでは、利用者と家族が疎遠にならないように、定期的に書類を取りに来てもらうように働きかけている。家族との交流の機会として、家族と外出している方もいるが、現状は、利用者が重度化していることもあり、困難になってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性や性格の良い面を引出しながら、入居者同士のコミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者に対して面会に行くなどフォローに努め、相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人と話したり、行動や気持ちから思いをくみ取り介護計画につなげチームで本人の希望にあった暮らしができるように支援している。	利用者の言動や様子等から得た情報については、個人記録の記録方法を午前と午後で分けることで、細かな把握に努めている。また、気付いたことがあった場合には、特記事項欄に記載することで、職員間の情報が共有しやすい工夫も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に必要な情報を把握し職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を注意深く把握するように、一日の様子は午前、午後、夕～夜間に分け、個人ファイルに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に話しを聞いたりフロア全体で検討をし現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画の内容を、利用者の状態に応じて基本6か月毎に見直し、「気づきノート」も活用しながら、現状に即した計画に努めている。また、モニタリングは6か月毎に行っているが、ユニットによってカンファレンスに差がある現状もある。	カンファレンスで時間をかけて話し合うことが難しい現状があるため、介護計画の内容に即した日常の記録を行うことで、介護計画の見直しにつながるようになることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルや日誌、申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外食など必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特にしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携医の往診が月2回、訪問ステーションからは、毎週看護師が訪れている。その他必要な医療機関には、家族対応となっている。	ホームの母体が医療機関であるため、協力医による往診が行われており、時間外や休日の際にも、ホームから受診支援を行う等、急変時にも柔軟に対応している。また、毎週、訪問看護が行われており、日常的な健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問ステーションの看護師に観てもらう他、必要時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院が緊急の入院などに対応してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に具体的なターミナル期の意向を確認している。	ホームでの看取り支援については、現状、行っていない。ホームでは、利用者の段階に応じて、母体の医療機関での受け入れ状況も考慮しながら、次の生活場所を考えてもらうように、家族とも話し合いを行っている。	利用者の重度化が進んでいるが、母体の医療機関にも受け入れにも限界がある。ホームでも、できることを増やすための取り組みを考えている。職員へのフォローも考えながら、より良い体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が救命救急講習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回いろいろな場面を想定して避難訓練、防災訓練を実地している。	ホームでは、年2回、夜間を想定した訓練を行っており、その際にはホーム内を暗くして実施している。また、ホーム内に水、食料、おむつ等の備蓄品の確保も行っている。なお、地域と連携した訓練の実施については、現状行われていない。	町内会への加入が実現したこともあるため、今後に向け、地域の方と災害に関する情報交換から始められることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にプライバシーの配慮に心がけている。個人記録の個人名やミーティング時、他利用者の前での会話には、イニシャルにしている。	ホーム理念の見直しを行ったこともあり、利用者の尊厳に配慮した支援の徹底に努めている。マニュアル等の整備は行われていないが、利用者の立場に立ちながら、その方のプライバシーに配慮した声かけ等を意識するように伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に決めることがないように、本人の意向を十分に把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく、散歩やレクなど本人に希望をとり一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たいものを選んでもらっている。訪問利用やなじみの床屋で本人の意向に沿ったスタイルにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、聞いている。できる事を手伝ってもらっている。	食材の購入や調理を職員で行っており、利用者の配膳や片付等、できることに参加している。食事の際には、職員も同席して食事を行っている。また、トロミ食や刻み食にも対応し、やおやつ作りを利用者と一緒に行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査の結果をもとに主治医と相談を行い食事の量を決めている。また、食事量や水分量は、チェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、義歯は毎晩消毒を行い保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声掛けやトイレ誘導を行っている。ズボンの上げ下げなど自分でできることは、してもらうように支援している。	職員間で排泄チェックに記録を残しながら、排泄に関する情報の共有や声かけのタイミング等を考え、トイレでの排泄を目指している。職員の取り組みを通じて、排泄状態が維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、飲水、運動、繊維質の多い食事を心がけている。排泄チェック表で一人ひとりを把握し早めの対処をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	頻度、時間、温度など一人ひとりに合わせて入浴してもらっている。	ホームでは2日に1回の入浴となっており、入浴を拒む方には、時間を変えたり、職員を交代しながら声かけを行うようにしている。また、重度の方には2人体制で対応することや、入浴剤を使用して、くつろげるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報を個人ファイルに入れ職員全員で共有している。症状に変化が見られた場合は医師に情報を伝え早めの対処をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方は、家事を手伝ってもらい編み物など趣味のある方は個人的に自由に活動するなど個人に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を見ながら、本人のその日の気分や希望に応じて散歩に出かけている。買い物も軽自動車に同乗し、職員と一緒に出掛けられるようにしている。	ホームでは体操の後に、近くに大きな公園があるため散歩に出かけている他、季節に合わせた外出として初詣や花見にも出かけている。また、利用者の希望に合わせてながら、少人数でスーパーへの買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金の管理する能力がなかったり、入居時に家族との話し合いで本人にお金を持たせたくない并希望する家族がほとんど。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけをしている。どこでも自由な場所で過ごせるように配慮している。	リビングが南を向いているため、採光に優れているため、利用者は明るい雰囲気の中で過ごすことができる。また、季節を感じられる飾りを行い、季節感を感じられる取り組みも行っており、特別な洗剤を使用することで、清潔感にも配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクの時の座席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、使い慣れたものを持ってきてもらっている。	居室には、利用者の身の回りの物や家具、位牌等を持ち込んでおり、その人らしい居室づくりに取り組んでいる。また、利用者が快適に過ごすことができるように、温度、湿度、風通しも配慮するように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に本人の部屋であることがわかるような飾り付けをしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームサンハウス荒子

## 目標達成計画

作成日: 平成 26年 5月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	職員体制が不十分で、年3回しか行うことができず、定期的な情報交換ができない。	年6回以上会議を行う。	職員体制を整え、色々な方面の方々へ声を掛け定期的に会議が行えるようにする。	12ヶ月
2	11・26	職員体制が不十分で、ミーティングが定期的にできていない。	月1回以上ミーティングを行う。	月1回はミーティングの日を決め、フロアごとに行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。